

正しい情報と知識で 安全な美容医療を

美容医療の標準化を目指し、国立大学で初めて独立診療科として「美容外科」を設立した神戸大学病院美容外科の一瀬晃洋医師に美容医療の現状と注意点について話を聞いた。



いちのせ あきひろ

一瀬晃洋医師

神戸大学病院

美容外科・形成外科

准教授・美容外科診療科長

神戸市中央区楠町7-5-2

078-382-5111

顔学かおがくと呼ばれる心理学の分野では「顔は社会的機能を持つ」といわれています。美容医療は自費診療で特別な治療といった印象があ

るかもしれませんが、顔は人間社会をよりよく生きるために非常に重要な役割を果たしていることは

心理学の世界では常識となつています。

できる医師選びが重要です。

国内でも美容医療を受ける患者さんは増加しています。美容医療の情報は商業主義的な広告が多いため、危険性が表面化せず、さまざまな問題が起きていることも事実です。

美容医療でとくに危険なのは「最新」と呼ばれるものです。過去の症例をみても、問題となつているのは「最新治療」とうたわれているものがほとんどです。一般的に保険診療において、最新の治療は効果が高いものですが、美容医療に関しては、未確認な治療が多いことを十分に理解していなければなりません。当院で実施しているセカンドオピニオンでもいちばん多い相談は、実はこれら最新の治療に関するものなのです。

シワやたるみ治療で使用するヒアルロン酸やコラーゲンは数百種類にもおよびます。これらのほとんどが日本では未承認のため、安全な治療を受けるためには信頼

なかには、安全性が確認されていない薬剤を注入されて、額などがデコボコになり、取り返しのつかなくなつた人もいます。最近ではフェイスイスリフトの一つで、無数の糸（金）を顔の皮膚の中に埋め込む「金の糸」や「長年持続する」と宣伝されたヒアルロン酸など、心を揺さぶる広告を目にします。が、日本美容外科学会では危険をはらむ治療として警鐘を鳴らしています。

当院では、美容医療の標準化を目指して美容外科を設立しましたが、教育の一環として、10年度から日本美容外科学会専門医取得プログラムを開始しました。取得には7年かかりますが、十分な知識と技術を習得するには7年でも足りないくらいです。

美容医療で失敗しないためには、医師と相談して最適な治療を選択すると同時に患者さん自身の勉強も必要です。正しい知識を持つて受けてほしいものです。